

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

②施設・事業所情報

名称：岩間保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：深沢 裕子（第三者評価実施時園長）	定員（利用人数）： 60名（53名）
所在地：〒240-0004 横浜市保土ケ谷区岩間町1-7-14	
TEL：045-348-2022	
ホームページ： iwamahoikuen.jp	

【施設・事業所の概要】

開設年月日 2013年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）： 有限会社 アルファ薬局		
職員数	常勤職員： 17名	非常勤職員： 9名
専門職員	保育士 17名	看護師 1名
	栄養士 2名	調理師 3名
施設・設備 の概要	(居室数)	(設備等)
	保育室5室、調理室1室、調乳室1室、職員休憩室1室、事務室1室（医務室兼用）、職員更衣室1室	施設は有限会社 アルファ薬局が経営するサービス付き高齢者住宅「たちばな館」と同じ建物の中にあります。鉄筋6階建ての建物で保育園は川沿いの入り口から入り1.2階にあります。1階は入口側から5歳・4歳・3歳児の部屋があり、5歳児と4歳児の部屋はアコーディオンカーテンで仕切っています。行事の時にはアコーディオンカーテンを開けて広く使えるようになっています。2階は0歳・1歳児と2歳児の部屋、調乳室、給食室、事務室があります。夏は屋上にプールを組み立て幼児が水遊びを楽しんでいます。

③理念・基本方針

保育理念

- ・思いやりの心、豊かな心を育む
- ・自分で考えて行動できる子を育てる
- ・個性を大切に「自分らしく育つ」を応援する
- ・保護者への安心を提供する

保育方針

- ・子どもとのふれあい、一人ひとりの個性を大切に子どもの目線になって日々保育に務めます
- ・子ども同士の遊びの中や保育士とのかかわり合いの中で自然に基本的な生活習慣が身につくように務めます
- ・絵本の読み聞かせをおこない、想像性のある子どもを育てます
- ・食事は栄養士が管理し、成長期の子どもの発達に相応しい献立を提供します
- ・地域との関わり合いを大切に、地域に愛される保育園を目指します

保育目標

- ・元気に遊び、丈夫な体を作る
- ・思いやりの持てる子どもを育てる
- ・自然とふれあい豊かな心を育てる

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・本の読み聞かせを行っています。保育室には常に子どもたちが絵本を手にすることができる環境を整えています。幼い頃より絵本を身近において本に親しみ、想像性のある子どもに育ててほしいと思っています。
- ・幼児クラスは、毎週木曜日に外部の指導者による体育指導を行っています。鉄棒、マット、跳び箱など、小学校入学前に運動に親しみ、運動が好きな子どもに育ててほしいと思っています。
- ・乳児クラスは保育士の数を多くおき、子どもがゆったりとした雰囲気の中で保育士との信頼関係を築き、愛着関係を育んでいます。子どもが必要な時に援助ができるよう、安心して自分の好きな遊びができるよう環境設定を整えています。
- ・園庭が狭いため色々な公園に散歩に出かけます。乳児は近くの公園中心ですが、後半になるとかなりの距離を歩けるようになります。保育士はその日の子ども的人数や体調に合わせて公園を決めます。幼児は距離を伸ばして西区の公園にも行きます。秋の遠足では、保土ヶ谷公園まで歩いて行きます。
- ・縦割り保育により異年齢の交流を行っています。年齢の違う子との関わりを通し、大きい子は小さい子へのいたわりや優しい気持ちが、小さい子は大きい子へのあこがれや期待感が育っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年12月23日（契約日）～2021年4月28日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2015年度）

⑥総評

◆特に評価の高い点

・子どもの個性を大切に、子どもが主体的に活動できるようにしています

園は、子ども一人ひとりの個性を大切に、保育をしています。保育士は、子どものやりたいという気持ちを大切に見守り、個々に合わせた声かけをしたり、手助けをしたりしています。保育士は子どもの言葉や発信を丁寧に受け止め、子どもが言葉で自分の気持ちを表現できるように働きかけています。園は絵本に力をいれていて、読み聞かせなどを通して、子どもが想像性を養い、言葉や表現力を身に付けられるようにしています。幼児は自分の考えを発表する機会を多く持ち、遊びのルールや行事の内容を話し合っ決めて決めるなど、子どもが主体的に活動できるようにしています。このような保育士の見守りのもと、子どもたちは主体的に活動に取り組み、のびのびと園生活を楽しんでいます。観察時にも、5歳児が得意な子どもが中心となって自主的に手話の練習をしている姿を見ることができました。

・風通しの良い職場環境の中、職員は方向性を共有し連携して保育しています

職員会議や園内研修で全園児の状況を把握するだけでなく、園を取り巻く様々な課題について共有し、目指す方向性について話し合っています。手厚い職員配置となっていて、活動内容や子どもの状況に合わせてフリーの職員が補助に入る体制ができています。また、看護師や栄養士を配置し、困ったときにはいつでも専門性に基づいたアドバイスを受けることができます。園は、職員が長く勤められる労働環境を整えていて、園の前身である横浜保育室時代から働き続ける職員が多くおり、平均勤務年数が14年を超えています。長く働き続ける中で、風通しの良い職場環境が作られていて、職員同士でいつでも声を掛け合い、助け合う関係ができています。このような環境の中で、職員は目指す保育の実現に向けて連携しています。

・地域の施設として、独自の子育て支援広場を運営しています

園は、地域との関係作りに力を入れています。園の運営委員会には町内会長と民生委員が参加し、地域の課題について情報交換しています。町内会のお祭りに職員が模擬店を出店したり、地域住民と一緒に子どもたちが公園に花や野菜を植えるなどし、活発に交流しています。地域の子育て支援にも力を入れていて、園独自の取り組みとして、就園前の子どもたちと保護者の交流の場として子育て支援広場「ピーチ」を運営しています。また、保土ケ谷区の「あかちゃん教室」に保育士を派遣したり、岩崎地域子育て支援連絡会の公園で遊ぶ会に保育士が参画しています。

◆改善を求められる点

・長期的なビジョンを中長期の事業計画としてまとめ、単年度の事業計画と連動していくことが期待されます

中長期的なビジョンとして5年後の理想像を定め中長期事業計画の枠組みを作成しています。ただし、実現のための課題や具体的な内容、成果などについては職員会議等で検討はされているものの、中長期事業計画に落とし込み計画としてまとめるまでには至っていません。そのため、単年度の事業計画は長期的ビジョンを踏まえたものとはなっていません。今後は、長期的なビジョンを基にした中長期事業計画を完成し、単年度の事業計画と連動していくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

平成 27 年度に続き 2 回目の受審を行いました。今回は前回と受審の内容が変わるということで、共通評価基準と内容評価基準のガイドラインを熟読し内容を理解することから始めました。共通評価は主に園長が行い、内容評価については主任保育士が中心となり全職員で行いました。

まず個々に自己評価を行った後、少人数で各自の自己評価のすり合わせをしました。少人数のグループにしたことで普段あまり意見を言わない職員も話しやすい状況になり、全員の意見が聞けたことは良かったと思います。話し合いの中で他の職員の保育観を改めて知ることができました。これは日常の保育や職員会議だけでは汲み取れない事なので有意義な話し合いでした。職員からも、自己評価をすることで自分の振り返りをする事ができ、日常的に意識しながら保育を行うようになった、という意見も出ました。今後は、コロナ禍における新しい生活様式に沿った行事や保育内容の見直しを行っていきたいと思います。

今回も、評価作業を通じて多くの事に気づかせていただきました。また、沢山の良い所も評価していただき、今後の保育の励みにもなりました。いくつかの課題点は職員間で共有し改善に努めていきたいと思います。

最後にお忙しい中アンケートにご回答いただきました保護者の皆様、コロナ禍の中、短いスケジュールにも関わらず受審にご尽力いただきました評価機関の皆様にご心より感謝申し上げます。

今後とも保護者の皆様や地域に愛される保育園を目指し更なる精進をまいります。ありがとうございます。

岩間保育園

園長 深沢 裕子（第三者評価実施時園長）

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり